

ラグビーが起源！タグフットボール全国大会開催

ワールド杯へ続け！淡路島「ボールパークあわじ」で 6 月 10 日キックオフ！

日本初！ニュージーランドより国際レフェリーを招聘・レフェリークリニック開催！

ー タックル無しスクラム無し、10～60 歳代がプレーできるポストラグビー ー

特定非営利活動法人日本タグフットボール協会（以下、日本タグフットボール協会・代表：岡村 剛 兵庫県神戸市中央区江戸町）が主催する「タグフットボール全国大会第 3 回淡路島オニオンカップ」を兵庫県立淡路佐野運動公園で開催。今大会は、今年 11 月開催されるワールド杯オーストラリア大会の日本代表選手の選考会も兼ねる。前日の 6 月 9 日には、日本初となるニュージーランドより国際レフェリー 3 名を招聘し、審判を育成するレフェリークリニックを芦屋市青少年センター川西運動場で開催する。



国際レフェリーが来日

左：フランシナ・ガタウア氏 (Francina Gataua)

右：ガース・ミッチェル氏 (Garth Mitchell)

日本のラグビー人口は約 12 万人*、他の人気スポーツに比べ国内競技人口や部活動が少ないにも関わらず現在世界ランク 11 位*、厚い選手層を支えているのは、ラグビー起源であるタグフットボールをはじめとする派生競技です。（*World Rugby 調べ）

昨年は国内外から 200 名を超える方々が集まり 14 歳-50 歳までの選手が戦い、「亀仙流」(大阪)が優勝しました。日本タグフットボール協会は、オセアニア杯(2016 年 11 月ニュージーランド開催)、W 杯(2015 年 12 月オーストラリア開催)に出場したチームが集結し、日本一のチームを決めるオニオン杯を開催します。

2019 年ラグビーワールド杯へ続け！10 万人以上がプレーするポストラグビー！



前大会でタグフットボールをしたラグビー W 杯元日本代表の大西将太郎氏

10 万人以上がプレーする「タグフットボール」とは？

ラグビーを起源とし 1992 年にオーストラリアで生まれたスポーツで、ラグビーボールを使い、タックルやスクラムは無く、腰につけた **2 本のタグを取合う、少接触プレーの 8 人制競技**。**誰でもプレーし易いのが特徴**。未就学児～60 歳を超える選手も世界一を競いあえる生涯スポーツ。オセアニア圏の競技人口は 10 万人を超え、ラグビーが盛んなオーストラリア、ニュージーランドをはじめ、ヨーロッパはラグビーが盛んなイギリスやアイルランド等で、人気があがっている。

つきましては、是非取材にお越しくさせていただきますよう、お願い申し上げます。

- ・開催日時： 2018 年 6 月 10 日(日) 開会式 10:00 ～ 閉会式 16:30
- ・会場： 兵庫県立淡路佐野運動公園（ボールパークあわじ）第 3 サッカー場
兵庫県淡路市佐野新島 9-6
<http://www.hyogo-park.or.jp/awajisano/contents/sisetsu/football.html>
- ・競技規則： ワールドカップ公式国際ルール適用
- ・優勝賞品： 淡路島産タマネギ他
- ・主催： 特定非営利活動(NPO)法人 日本タグフットボール協会

現在のラグビー人気の根底には、ラグビーが起源のタグフットボールを始めとする以下の派生競技の存在があります。

●ラグビーを起源および類似した競技が複数存在。他競技では稀な事象。

例) サッカーに対してフットサルの位置づけのスポーツ。

●神戸市立中学校は、「タックル・スクラム」が危険という理由からラグビー部のある学校が一枚も無い。**タグフットボール**やタグラグビーは、危険性の少ない代替競技として小学校で授業に取り入れられており、未来のラグビー選手育成の役割を担っている。

●「ラグビーW杯2019日本大会」に向け、日本ではラグビーが野球やサッカーに比べマイナー競技の位置づけにも関わらず、人口・ファンを普及する為の土壌づくりが、日本各地で行われている。

- 1) 7人制ラグビー (オリンピック正式競技)
- 2) **タグフットボール** (国際スポーツとして世界で競技、13人制ラグビーがルーツ)
<https://www.jptagfootball.org>
- 3) タッチラグビー (国際スポーツとして世界で競技、13人制ラグビーがルーツ)
- 4) タグラグビー (日本ラグビー協会が開発、日本国内のみ。15人制ラグビーがルーツ)
- 5) ビーチラグビー (日本発祥の砂浜で競う6人制ラグビー)
- 6) ファイブス (日本発祥の5人制タグラグビー)

いずれも、5~8人制、コートはハーフコートまたは小さなサイズでプレーし、選手を集めやすい点・フィールド確保のし易さ共に、ラグビーに比べ試合開催が容易な事が利点となり人気を得ている。



2015年タグフットボールW杯出場メンバー



オセアニア杯日本代表選手として戦う安藤泰生選手
(2017 サニックスワールドユースNZ代表)

<プレスリリースに関するお問い合わせ>

連絡先：NPO 法人日本タグフットボール協会 理事長 岡村 剛 / 広報 三島ちせ

兵庫県神戸市中央区江戸町 85-1 ベイウイング神戸ビル 9階 Eメール：info@jptagfootball.org

TEL:078-393-5123 FAX:078-393-5124 オフィシャルサイト：<https://jptagfootball.org>

